

両国花火資料館

(東京・墨田区)



鉄砲伝来とともに日本に入ってきたのが火薬ですが、同時に観賞用花火も伝来したといわれています。花火が夏の風物詩となったのがいつの頃からはよくわかりませんが、隅田川で花火が最初に打ち上げられたのは寛永5年(1628年)という記録が残っているそうです。

隅田川の花火といえば、両国の川開き花火が有名です。川開きというのは、川涼みの開始を祝って行われる行事で、隅田川では陰暦5月28日から3か月間が夕涼みの期間とされ、その初日には盛大に花火が打ち上げられました。これが、今日の花火大会のルーツといわれています。

両国花火資料館は、隅田川にかかる両国橋の近くにあり、江戸から続く、花火の伝統を知ることのできるパネル、本物の花火玉、花火玉のカットモデル、花火を打ち上げるときに使う打ち上げ筒、昔の花火資料、花火にかかわる錦絵などが展示してあります。





訪れたときは、7月28日に開催予定の隅田川花火大会が近いこともあって、多くの訪問者がありました。また、ガイドの方が親切に江戸花火の歴史を教えてくださいました。

花火というと「鍵屋」「玉屋」の掛け声がよく知られていますが、実は「鍵屋」の方が歴史が古く、「玉屋」は、「鍵屋」の暖簾分けで生まれました。江戸の花火は、鍵屋の歴史でもある、といえます。「鍵屋」は現在でも続いており、花火の製造は行っていないですが、15代目の天野安喜子さんが、各地の花火大会のプロデュースをする花火師として活躍中とのこと。ちなみに天野さんは、柔道の国際審判員としての顔を持っています。

江戸時代の花火について、浮世絵を見ると気がつくことがあります。まず、花火の色ですが、現在のように多様な色を発色できていません。また、大輪の花が咲くように開くこともありません。着色ができるようになったのは、各種の金属粉末の利用が可能になった明治以降のことでした。丸く開く花火、様々な色の発色にも鍵屋が深くかかわっています。

花火の歴史を聞いていると、今年の夏はぜひとも花火大会にいこう、と思ってしまう。



両国花火資料館
 〒130-0026 東京都墨田区両国 2-10-8
 住友不動産両国ビル 1F
 連絡先 墨田区観光協会
 TEL 03-5608-6951 <http://visit.sumida.jp>
 アクセス
 ■JR 総武線「両国」駅西口下車 徒歩 4分